

関西四大学「薬物に関する意識調査」集計結果 報告書

2018年10月

これまで、大学生の大麻等不正薬物の所持・乱用による事件事故が相次いで発生し、薬物汚染が大きな社会問題に発展しました。こうした状況の下で、各大学における薬物に関する教育活動が喫緊の課題となり、2009年3月7日、関西四大学は、薬物乱用防止に関する共同声明を発表しました。健康で充実したキャンパスライフを学生に保障するとともに、より広い視点に立ち、安全・安心の社会を実現するための教育・研究、そして社会的な活動を大学の使命ととらえ、薬物乱用防止のための恒常的・経常的かつ組織的な啓発活動を行い、広く社会に向けてその活動を展開していくことを宣言しました。

その具体策として、共同のアクションプランを企画し、共同声明の発表以降、3つのアクション「委員会の開催・設置」、「教育・調査活動」、「広報活動」を柱に各大学で様々な取り組みを実施してきました。「関西四大学薬物乱用防止連絡会」の設置・開催をはじめ、学生参加のキャンペーンを行い、さらに講演会も開催してきました。

こうした活動の一つとして、2009年10月から関西四大学共同の「薬物に関する意識調査」を開始し、同調査も今年で10年目を迎えます。

警察庁組織犯罪対策部組織犯罪対策企画課発表の「平成29年における組織犯罪の情勢（第3章：薬物・銃器情勢）」によると、薬物事犯検挙人員はここ数年横ばいが続いていますが、2009年から年々減少を続けていた大麻事犯の検挙人員が、2014年から増加に転じ、大学生を含む若年層の増加が顕著となっています。（2009年の大学生大麻事犯検挙人員は81名であり、そこから毎年減少し、2013年には23名となりましたが、2014年から増加に転じ2017年には55名となりました）。

また、昨今では乱用した者が重篤な症状を起こして救急搬送されたり、重大な交通事故を引き起こしたりするなど社会問題化し、「危険ドラッグ」と総称された薬物について、政府は2014年4月に薬事法を改正（「医薬品医療機器法」）し、対策を強化しています。その結果、危険ドラッグの使用が原因と疑われる死亡事案が大幅に減少するなど、その対策に一定の効果が上がっている一方、インターネットを利用して密売されるなど流通ルートが潜在化しており、今後の動向を引き続き注視する必要があります。

私たちは、関西四大学共同の「薬物に関する意識調査」を今後も継続して実施することにより、学生の薬物に対する意識と態度等、若年層における薬物事情の変遷を明らかにし、さらなる薬物乱用防止策の企画立案に役立ただけでなく、社会に対して警鐘を鳴らすことができるのではないかと考えています。

なお、質問項目については、大麻が中心であったものから、2015年に「危険ドラッグ」を含む、危険な薬物全般について調査する内容に変更しました。今回も同様に、大学入学前の中学・高校等における啓発活動の成果も反映させるべく、関西四大学の入学直後の新生を対象にアンケート調査を実施しました。その結果、新生が大学入学以前から薬物乱用防止に関する教育を受け、さまざまな形で薬物についての情報に接しているほか、引き続き、ごく少数であっても薬物に接触する危険性があることが明らかになりました。

関西四大学では、2009年10月の報告書から続くこの調査結果から目をそらすことなく、今後さらに慎重に検討を加え、引き続き薬物乱用防止のための教育活動を展開していきます。加えて、他の教育機関の諸活動においても今回の調査結果が役立つことを願っています。

2018年10月

関西大学学長	芝井 敬司
関西学院大学学長	村田 治
同志社大学学長	松岡 敬
立命館大学学長	吉田美喜夫

\*2015年度の本調査より、昨今流通する違法薬物が多様化している実情に鑑み「大麻」や「危険ドラッグ」といった個別の薬物について聞くのではなく、質問2で示した薬物を「これらの薬物」と総称した上で意識調査を実施している。(質問3～20)

## I 調査対象

対象者数 : 2018年度入学生 26,068名(関西四大学合計人数)  
 実施期間 : 各大学により定められた期間(2018年4月)  
 調査方法 : 紙媒体  
 回答数(率) : 22,945名(88.0%)

## II 集計結果

各質問への回答状況は、次ページ以降のグラフ及び集計表のとおりである。

主な回答の集計結果について

◇質問1 薬物乱用問題について関心がありますか。(1つに○)

<回答>

非常に関心がある	2.0%	前年度比-0.2ポイント
ある程度関心がある	29.0%	前年度比±0
どちらともいえない	27.0%	前年度比+2.1ポイント
あまり関心がない	16.0%	前年度比-0.6ポイント
ほとんど関心がない	26.0%	前年度比-1.0ポイント

2014年度から本年度までの5年間を振り返ってみたところ、いずれの回答も大きな割合の変動がなく、ほぼ横ばいで推移している。また、どの年においても、「あまり関心がない」「ほとんど関心がない」の合計が、「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の合計を上回っており、薬物問題への関心はあまり高くないことがうかがえる。

◇質問2 次の薬物の名前を知っていますか。(複数回答可)

<回答>

有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	75.9%	前年度比-1.2ポイント
覚せい剤(スピード、エスなど)	90.1%	前年度比-1.4ポイント
大麻(マリファナ、ハッシュシュなど)	91.9%	前年度比-0.5ポイント
コカイン	85.5%	前年度比-2.7ポイント
あへん類(ヘロインなど)	62.7%	前年度比-1.9ポイント
LSD	15.7%	前年度比-0.2ポイント
MDMA(エクスタシーなど)	58.4%	前年度比-3.2ポイント
いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	71.9%	前年度比+0.5ポイント
知っているものはない	2.6%	前年度比-0.2ポイント

◇質問1-1 これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか(1つに○)

<回答・抜粋>

どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない。	91.0%	前年度比+0.3ポイント
他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である。	7.0%	前年度比+0.3ポイント

依然として、他人に迷惑を掛けなければ、使用は個人の自由であると考えている学生が一定数存在している。

◇質問 13 これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。(1つに○)

<回答>

誘われたり、勧められたことはない	94.0%	前年度比+2.2 ポイント
購入を勧められたことがある	1.0%	前年度比+0.6 ポイント
使用を誘われたことがある	1.0%	前年度比-0.1 ポイント
わからない	4.0%	前年度比+0.3 ポイント

◇質問 15 (ア) 周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つに○)

<回答>

いない	87.0%	前年度比+2.2 ポイント
いる (いた)	4.0%	前年度比+0.6 ポイント
わからない	10.0%	前年度比+0.6 ポイント

◇質問 15 (イ) 【質問 15 (ア) で「2 いる (いた)」に○をつけた人だけお答えください】  
どの薬物でしたか。(複数回答可)

<回答>

有機溶剤 (シンナー、トルエンなど)	11.8%	前年度比-9.4 ポイント
覚せい剤 (スピード、エスなど)	8.0%	前年度比-1.6 ポイント
大麻 (マリファナ、ハッシュシュなど)	41.3%	前年度比+1.5 ポイント
コカイン	5.4%	前年度比-2.2 ポイント
あへん類 (ヘロインなど)	2.4%	前年度比+0.4 ポイント
LSD	2.1%	前年度比-0.6 ポイント
MDMA (エクスタシーなど)	2.5%	前年度比-0.4 ポイント
いわゆる危険ドラッグ (脱法ハーブなど)	9.3%	前年度比-1.8 ポイント
わからない	34.8%	前年度比-26.8 ポイント

依然として大麻の比率が高く、昨年度から増加傾向にある。

◇質問 17 これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数回答可)

<回答>

警察の相談窓口	24.1%	前年度比+2.1 ポイント
行政機関の相談窓口 (精神保健福祉センター等)	10.2%	前年度比+0.7 ポイント
医療機関の相談窓口	14.7%	前年度比-0.4 ポイント
民間の支援団体の相談窓口	7.8%	前年度比+0.5 ポイント
知らない	60.2%	前年度比-0.9 ポイント

薬物に関する相談窓口について、ほぼ6割の学生が知らないと回答している。大学としてもこれらに関し引き続き情報発信を行っていく必要があると考える。

◇質問 18 あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数回答可)

<回答>

薬物乱用による健康被害情報	47.6%	前年度比+0.2 ポイント
薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報	35.2%	前年度比+0.6 ポイント
国や地方公共団体等の薬物乱用対策情報	12.4%	前年度比+0.5 ポイント
医療機関や民間支援団体の取り組み情報	10.1%	前年度比+0.3 ポイント
特になし	24.3%	前年度比-0.6 ポイント

◇質問19 (ア) あなたは、これらの薬物を入手可能と考えますか。(1つに○)

<回答>

不可能だ	21.0%
かなり難しい	23.0%
難しいが手に入る	38.0%
手に入る	18.0%

◇質問19 (イ) 【質問19 (ア) で「3 難しいが手に入る」または「4 手に入る」に○をつけた人だけお答えください】入手可能と考えた理由は何ですか。(複数回答可)

<回答>

インターネットなどで探せば見つけることができると思うから	85.1%
インターネットなどで販売されているのを見かけたことがあるから	3.8%
それ以外	12.2%

※ 質問19 前年度より質問方法を見直したため、前年度比は省略

薬物の入手可否について「難しいが手に入る」が最も割合を占めており、その大半が、「インターネットで探せば見つけることができると思うから」と回答している。また、少数ではあるが、「インターネットなどで販売されているのを見かけたことがあるから」と回答している。

◇質問20 薬事法の一部改正(平成26年4月1日施行)により、危険ドラッグと称される薬物や商品(脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど)の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(1つに○)

<回答>

知っている	70.0%	前年度比+5.0ポイント
知らなかった	30.0%	前年度比+0.5ポイント

「知っている」と答えた学生が7割にとどまっており、危険ドラッグに対する正しい知識を更に啓発していく必要がうかがえる。

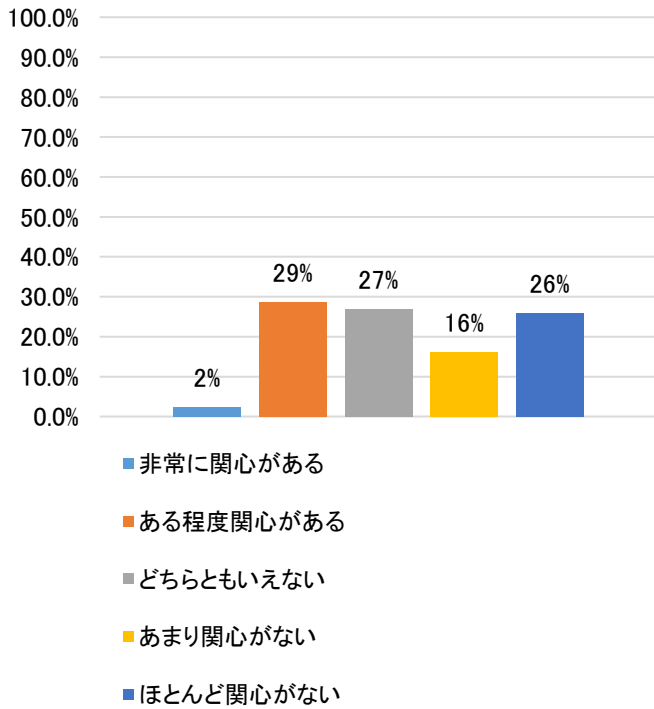
上記から、薬物乱用問題に関心をもっている学生は一定数いるものの、注意・関心を持っていない学生が多数であることがわかる。そのような現状の中で、使用については個人の自由であると捉えている学生や、周囲に薬物を所持したり、使用したりしている学生を知っている学生が少数ながら存在していることが読み取れる。

また、危険ドラッグと称される薬物や薬品の所持・利用により罰せられることを知らない学生や、様々な相談機関の存在を知らない学生が多数存在し、薬物乱用防止の観点から必要な知識や意識が新入生には不足していることが読み取れるとともに、質問18の結果は、学生に訴求力がある啓発活動を大学で策定する上での良い参考情報となっている。

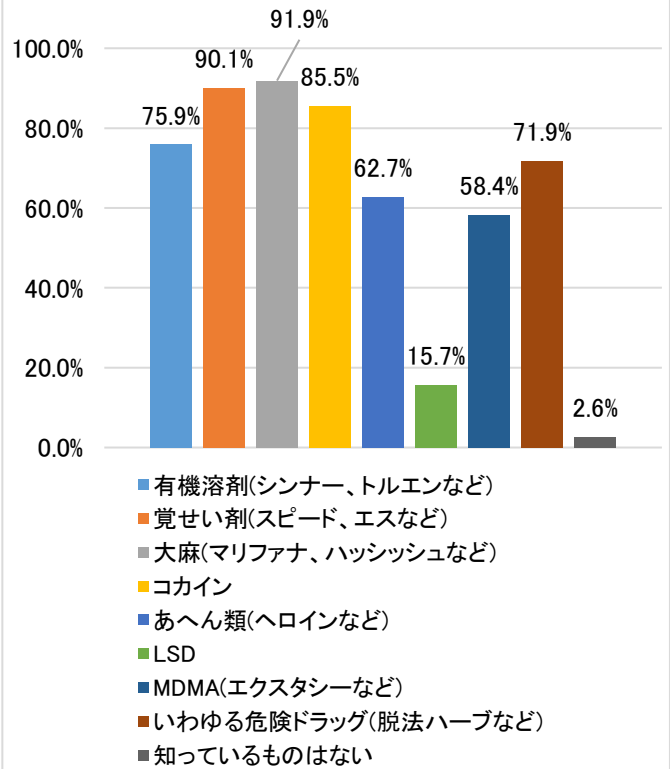
質問19の結果から、インターネットが社会に深く根付いた現在において、薬物の入手は困難であるものの探せば手に入るという感覚を持っている学生が多いことがわかる。たくさんの情報が容易に得られることによって、そのように感じている学生が多いのではなかろうか。

本結果から、薬物乱用問題に関し、社会的にどのような話題が取り上げられ、学生はどのような情報を得ているのか、その情報源や内容を分析し、さらに現在の学生に不足している知識を把握することで、各大学における効果的な啓発方法を検討していく必要があると考える。

共通質問1 薬物乱用問題について関心がありますか。(1つに○) N=22945

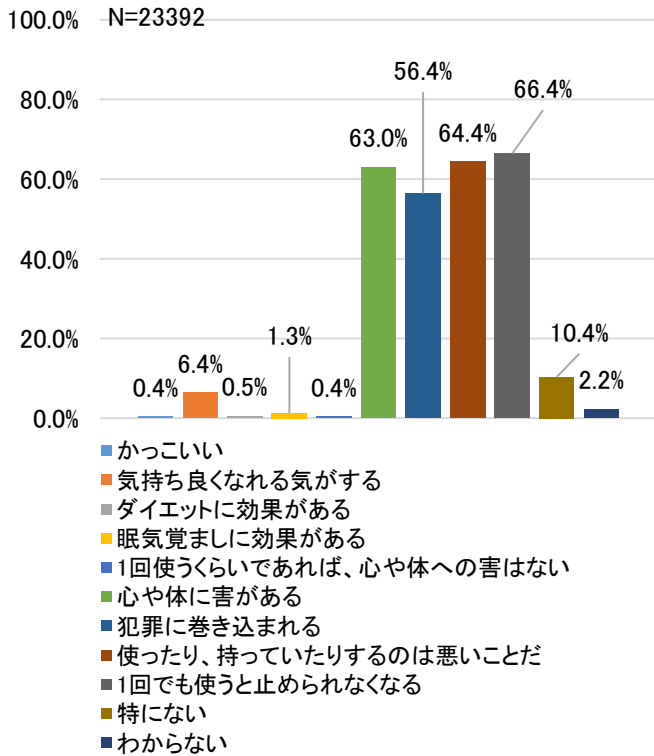


共通質問2 次の薬物の名前を知っていますか。(複数回答可) N=23392

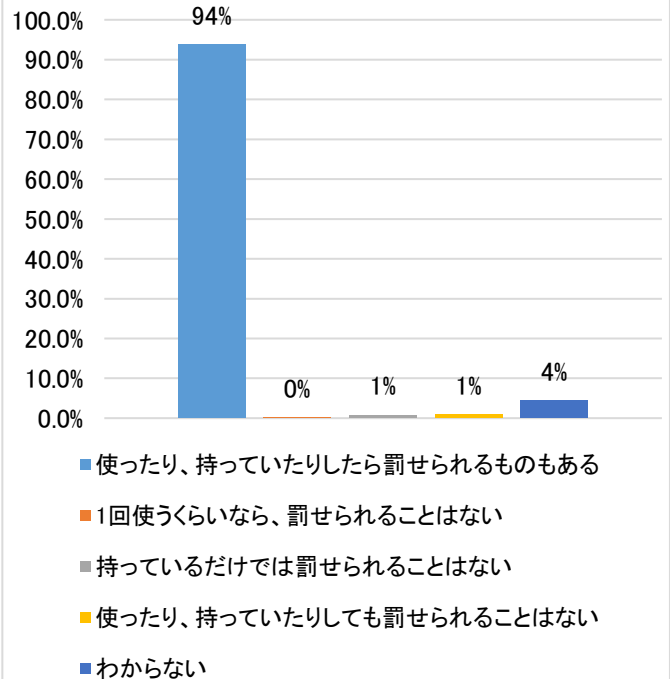


【次の質問以降は質問2であげた薬物についてお聞きします。】

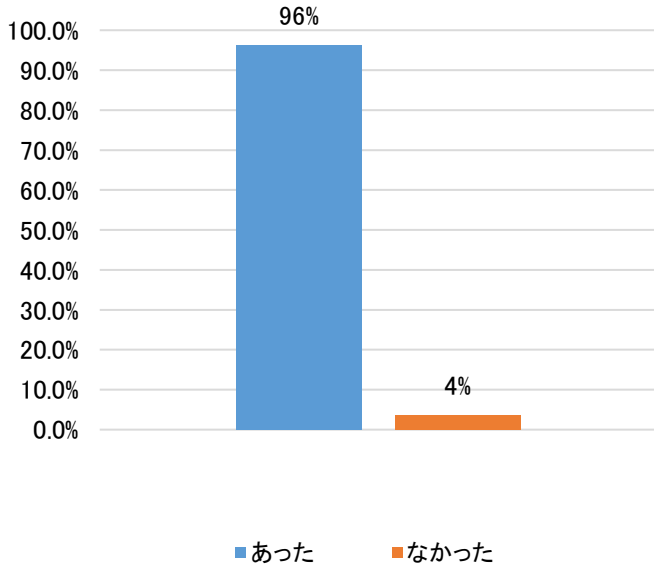
共通質問3 これらの薬物についてどのような印象を持っていますか。(複数回答可) N=23392



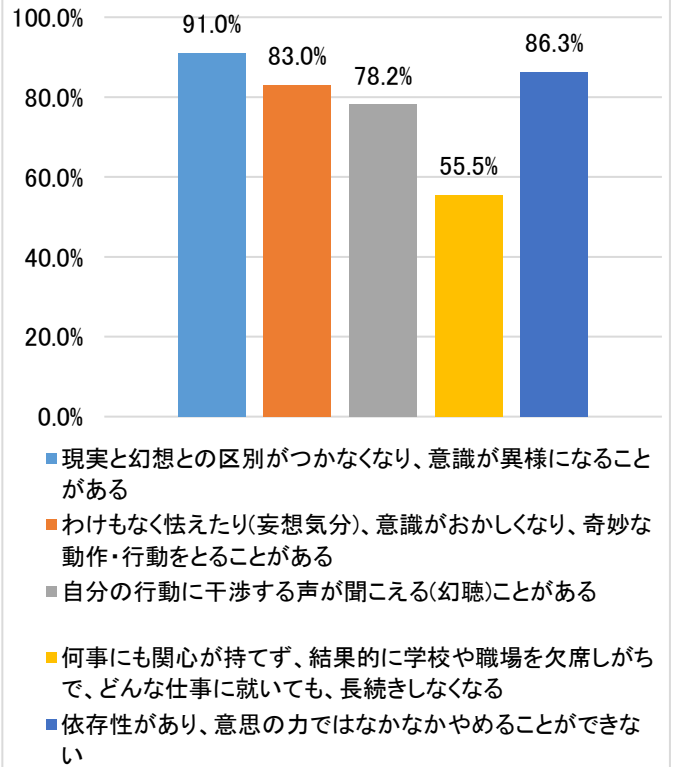
共通質問4 これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、どうなるとお考えですか。(1つに○) N=22796



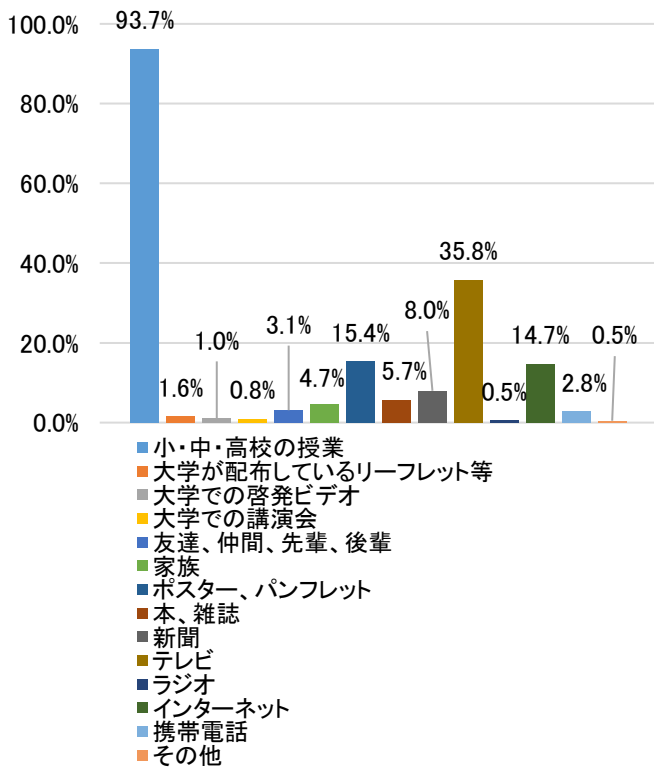
共通質問5 これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありますか。(どちらかに○) N=22833



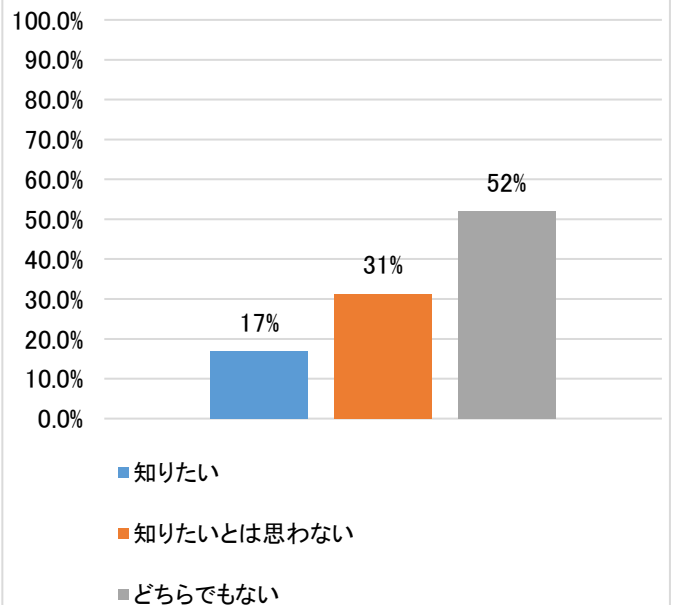
共通質問6 薬物を使った場合、次のようになることがあるのを知っていましたか。(複数回答可) N=23392



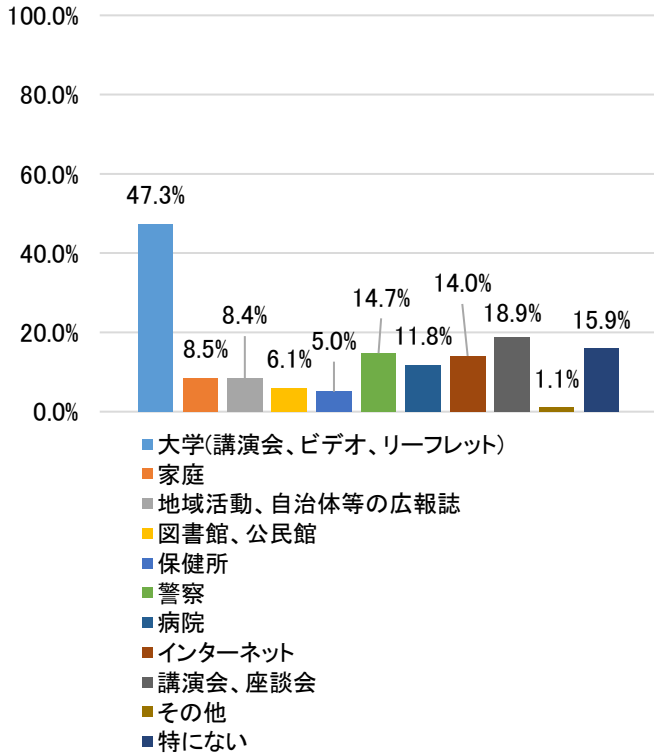
共通質問7 これらの薬物について何から情報を得ましたか。(複数回答可) N=23392



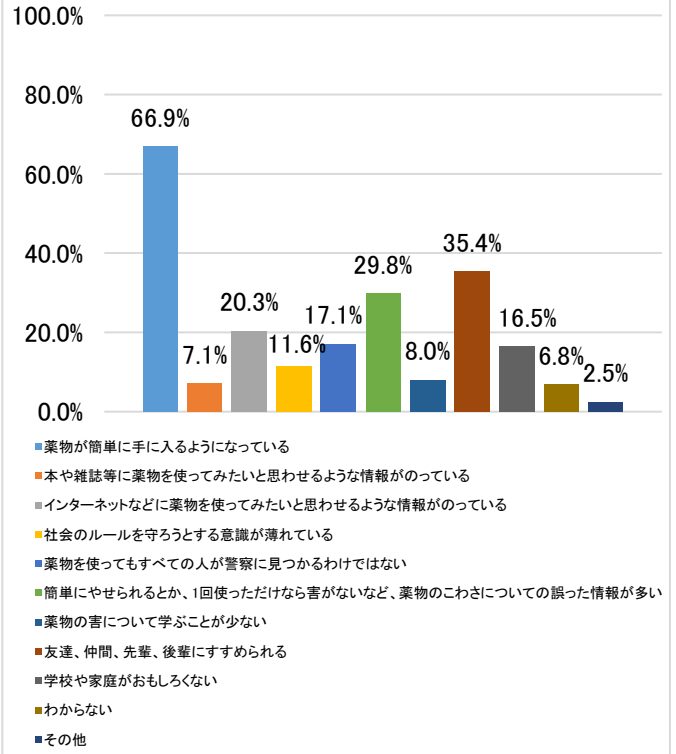
共通質問8 これらの薬物を使うことのこわさ(有害性、危険性)をもっと知りたいですか。(1つに○) N=22760



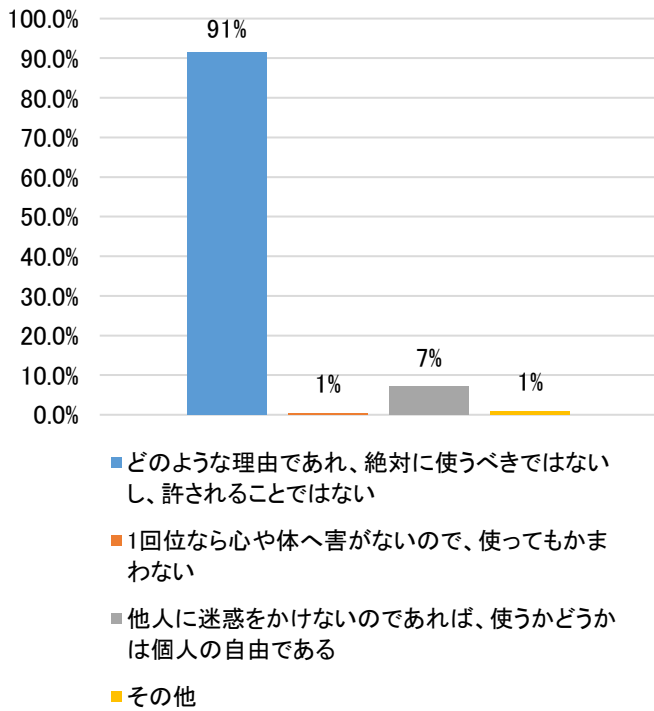
共通質問9 これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。(複数回答可) N=23392



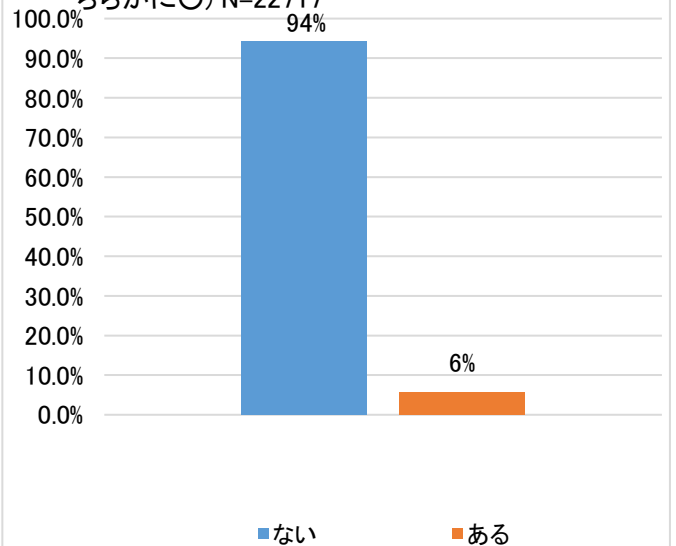
共通質問10 これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思えますか。(複数回答可) N=23392



共通質問11 これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。(1つに○) N=22656

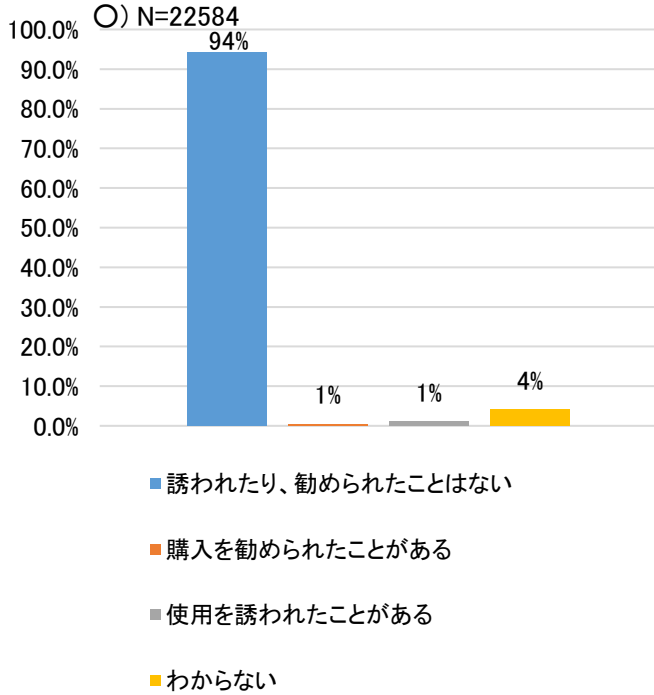


共通質問12 これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。<テレビ、映画、報道等で見たものは除きます>(どちらかに○) N=22717

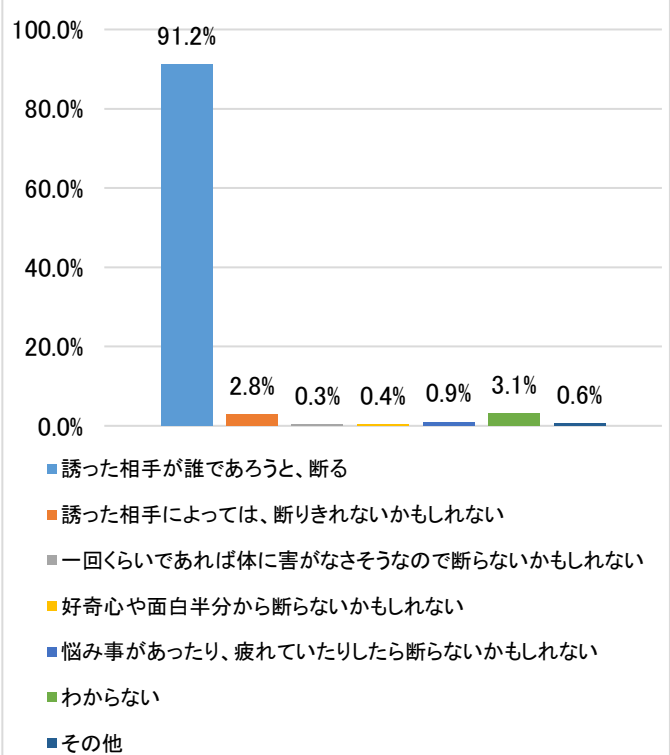




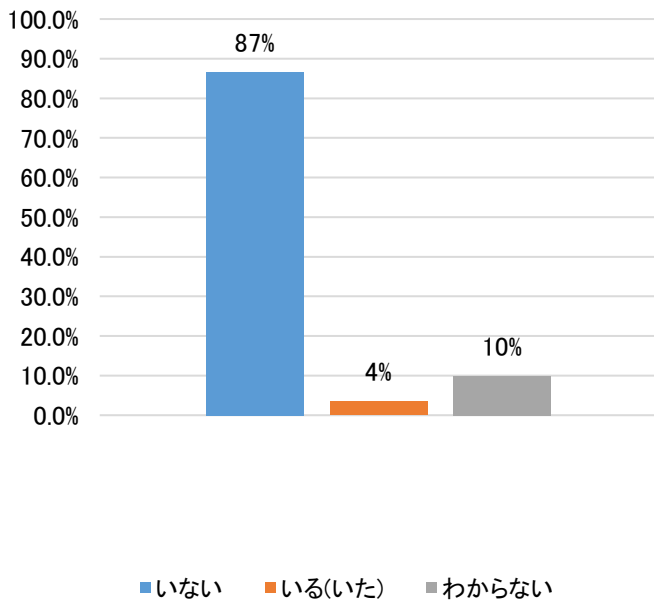
共通質問13 これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。(1つに○) N=22584



共通質問14 これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。(複数回答可) N=23392

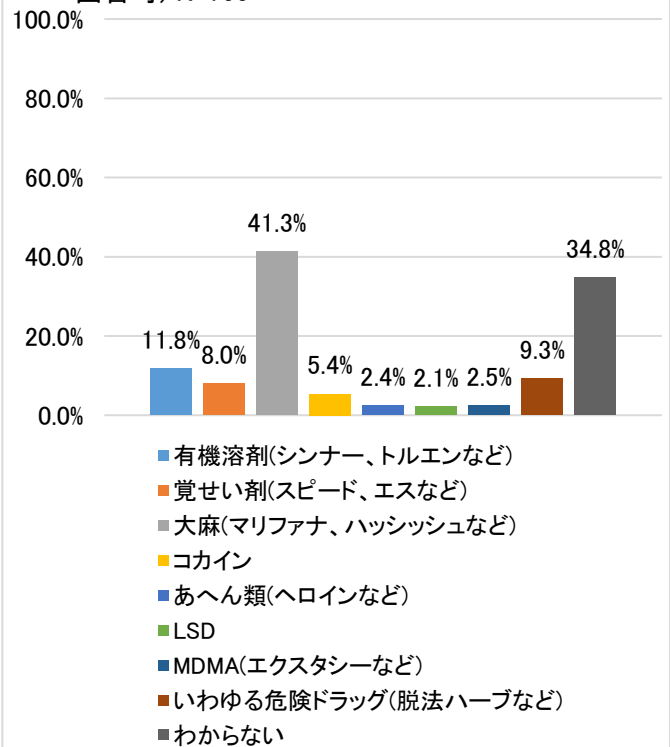


共通質問15(ア) 周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つに○) N=22574

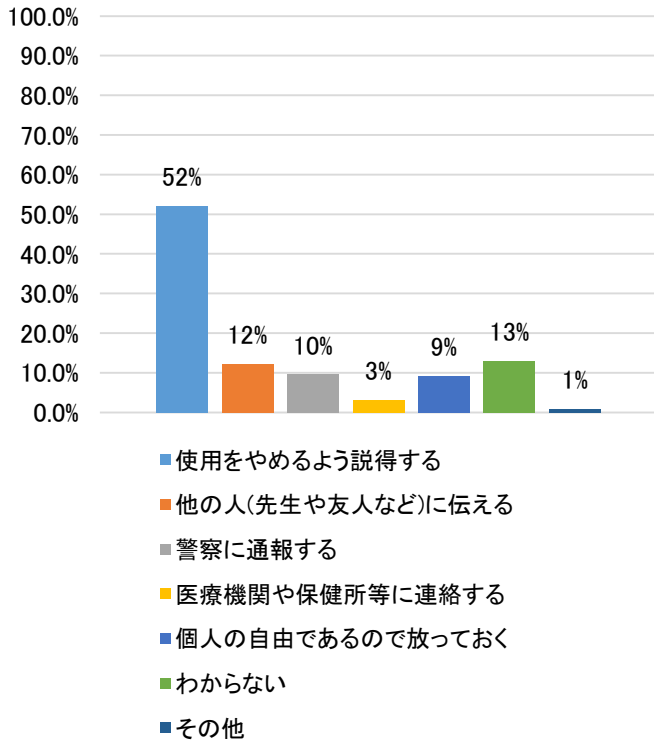


【質問15(ア)で「2 いる(いた)」に○をつけた人だけお答えください】

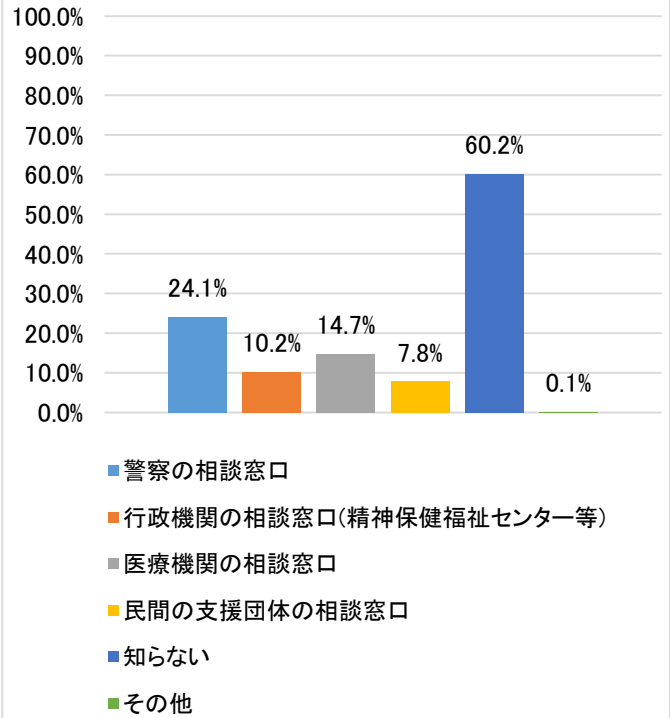
共通質問15(イ) どの薬物でしたか。(複数回答可) N=799



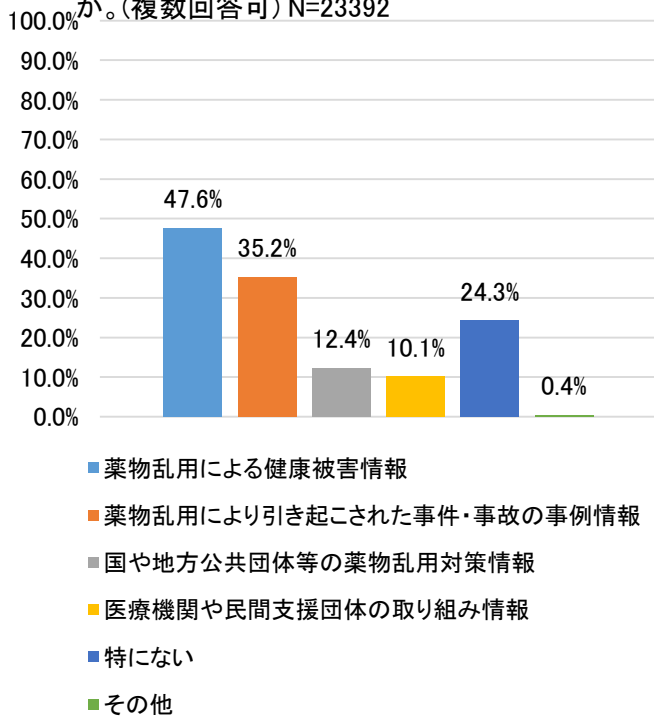
共通質問16 もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。  
(1つに○) N=21492



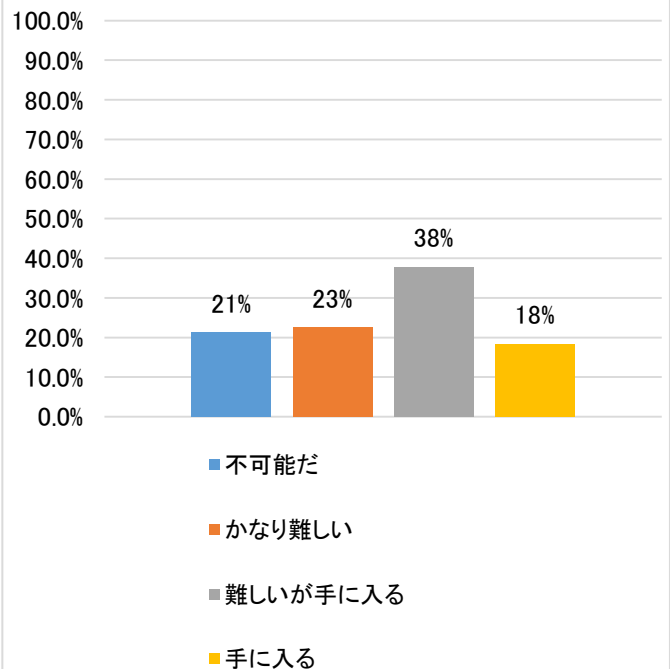
共通質問17 これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数回答可) N=23392



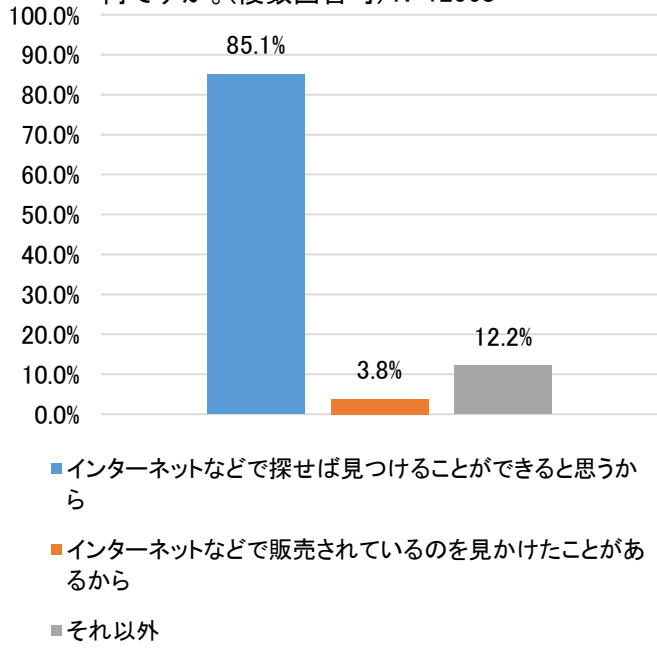
共通質問18 あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何ですか。(複数回答可) N=23392



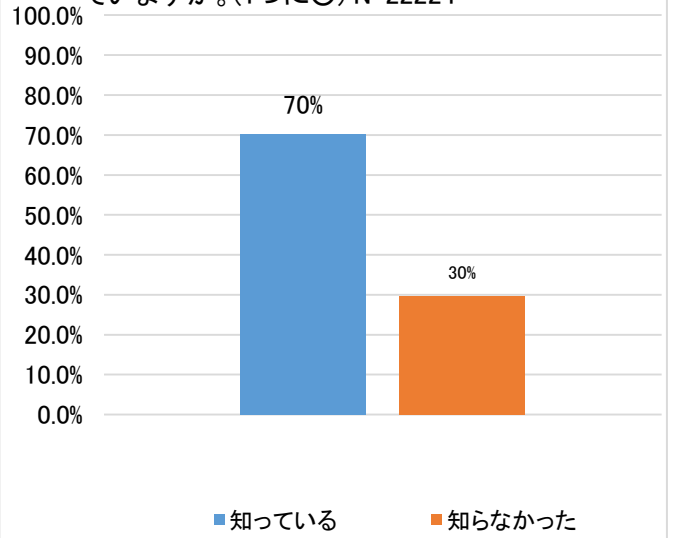
共通質問19(ア) これらの薬物を入手可能と考えますか。(1つに○) N=22386



【質問19(ア)で「3 難しいが手に入る」または「4 手に入る」に○をつけた人だけお答えください。】  
共通質問19(イ) 入手可能と考えた理由は何ですか。(複数回答可) N=12568



共通質問20 薬事法の一部改正(平成26年4月1日施行)により、危険ドラッグと称される薬物や商品(脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど)の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(1つに○) N=22224



2018年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問1 薬物乱用問題について関心がありますか。(1つに○) N=22945

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	非常に関心がある	551	2.4%	2%
2	ある程度関心がある	6576	28.6%	29%
3	どちらともいえない	6171	26.8%	27%
4	あまり関心がない	3709	16.1%	16%
5	ほとんど関心がない	5938	25.8%	26%
	不明	39	0.2%	
	N(%ベース)	22984	100.0%	22945

共通質問2 次の薬物の名前を知っていますか。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	17761	75.9%	-
2	覚せい剤(スピード、エスなど)	21068	90.1%	-
3	大麻(マリファナ、ハッシュシュなど)	21496	91.9%	-
4	コカイン	19998	85.5%	-
5	あへん類(ヘロインなど)	14669	62.7%	-
6	LSD	3673	15.7%	-
7	MDMA(エクスタシーなど)	13650	58.4%	-
8	いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	16819	71.9%	-
9	知っているものはない	619	2.6%	-
	N(%ベース)	23392	-	

【次の質問以降は質問2であげた薬物についてお聞きます。】

共通質問3 これらの薬物についてどのような印象を持っていますか。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	かっこいい	105	0.4%	-
2	気持ち良くなれる気がする	1499	6.4%	-
3	ダイエットに効果がある	113	0.5%	-
4	眠気覚ましに効果がある	302	1.3%	-
5	1回使うくらいであれば、心や体への害はない	105	0.4%	-
6	心や体に害がある	14734	63.0%	-
7	犯罪に巻き込まれる	13187	56.4%	-
8	使ったり、持っていたりするの悪いことだ	15054	64.4%	-
9	1回でも使うと止められなくなる	15540	66.4%	-
10	特にない	2422	10.4%	-
11	わからない	524	2.2%	-
	N(%ベース)	23392	-	

共通質問4 これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、どうなと思いますか。(1つに○) N=22796

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	使ったり、持っていたりしたら罰せられるものもある	21377	92.9%	94%
2	1回使うくらいなら、罰せられることはない	41	0.2%	0%
3	持っているだけでは罰せられることはない	168	0.7%	1%
4	使ったり、持っていたりしても罰せられることはない	203	0.9%	1%
5	わからない	1007	4.4%	4%
	不明	210	0.9%	
	N(%ベース)	23006	100.0%	22796

共通質問5 これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありますか。(どちらかに○) N=22833

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	あった	21994	95.6%	96%
2	なかった	839	3.6%	4%
	不明	174	0.8%	
	N(%ベース)	23007	100.0%	22833

共通質問6 薬物を使った場合、次のようになることがあるのを知っていましたか。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	現実と幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがある	21293	91.0%	-
2	わけもなく怯えたり(妄想気分)、意識がおかしくなり、奇妙な動作・行動をとることがある	19414	83.0%	-
3	自分の行動に干渉する声が聞こえる(幻聴)ことがある	18287	78.2%	-
4	何事にも関心が持てず、結果的に学校や職場を欠席しがちで、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる	12980	55.5%	-
5	依存性があり、意思の力ではなかなかやめることができない	20189	86.3%	-
	N(%ベース)	23392	-	

## 2018年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問7 これらの薬物について何から情報を得ましたか。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	小・中・高校の授業	21922	93.7%	-
2	大学が配布しているリーフレット等	371	1.6%	-
3	大学での啓発ビデオ	234	1.0%	-
4	大学での講演会	198	0.8%	-
5	友達、仲間、先輩、後輩	727	3.1%	-
6	家族	1088	4.7%	-
7	ポスター、パンフレット	3595	15.4%	-
8	本、雑誌	1322	5.7%	-
9	新聞	1865	8.0%	-
10	テレビ	8380	35.8%	-
11	ラジオ	128	0.5%	-
12	インターネット	3429	14.7%	-
13	携帯電話	648	2.8%	-
14	その他	108	0.5%	-
	N(%ベース)	23392	-	

共通質問8 これらの薬物を使うことのこわさ(有害性、危険性)をもっと知りたいですか。(1つに○) N=22760

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	知りたい	3839	16.7%	17%
2	知りたいとは思わない	7112	30.9%	31%
3	どちらでもない	11809	51.3%	52%
	不明	246	1.1%	
	N(%ベース)	23006	100.0%	22760

共通質問9 これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	大学(講演会、ビデオ、リーフレット)	11060	47.3%	-
2	家庭	1985	8.5%	-
3	地域活動、自治体等の広報誌	1965	8.4%	-
4	図書館、公民館	1417	6.1%	-
5	保健所	1181	5.0%	-
6	警察	3448	14.7%	-
7	病院	2755	11.8%	-
8	インターネット	3286	14.0%	-
9	講演会、座談会	4410	18.9%	-
10	その他	247	1.1%	-
11	特になし	3731	15.9%	-
	N(%ベース)	23392	-	

共通質問10 これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思えますか。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	薬物が簡単に手に入っている	15657	66.9%	-
2	本や雑誌等に薬物を使ってみたいと思わせるような情報がある	1663	7.1%	-
3	インターネットなどに薬物を使ってみたいと思わせるような情報がある	4748	20.3%	-
4	社会のルールを守ろうとする意識が薄れている	2715	11.6%	-
5	薬物を使ってもすべての人が警察に見つかるわけではない	3999	17.1%	-
6	簡単にやせられるとか、1回使っただけなら害がないなど、薬物のこわさについての誤った情報が多い	6972	29.8%	-
7	薬物の害について学ぶことが少ない	1879	8.0%	-
8	友達、仲間、先輩、後輩にすすめられる	8271	35.4%	-
9	学校や家庭がおもしろくない	3852	16.5%	-
10	わからない	1600	6.8%	-
11	その他	574	2.5%	-
	N(%ベース)	23392	-	

共通質問11 これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。(1つに○) N=22656

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない	20705	90.1%	91%
2	1回位なら心や体へ害がないので、使ってもかまわない	116	0.5%	1%
3	他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である	1621	7.1%	7%
4	その他	214	0.9%	1%
	不明	333	1.4%	
	N(%ベース)	22989	100.0%	22656

2018年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問12 これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。〈テレビ、映画、報道等で見たものは除きます〉(どちらかに○) N=22717

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	ない	21404	93.0%	94%
2	ある	1313	5.7%	6%
	不明	286	1.2%	
	N(%ベース)	23003	100.0%	22717

共通質問13 これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。(1つに○) N=22584

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	誘われたり、勧められたことはない	21292	92.7%	94%
2	購入を勧められたことがある	119	0.5%	1%
3	使用を誘われたことがある	235	1.0%	1%
4	わからない	938	4.1%	4%
	不明	393	1.7%	
	N(%ベース)	22977	100.0%	22584

共通質問14 これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	誘った相手が誰であろうと、断る	21325	91.2%	-
2	誘った相手によっては、断りきれないかもしれない	660	2.8%	-
3	一回くらいであれば体に害がなさそうなので断らないかもしれない	77	0.3%	-
4	好奇心や面白半分から断らないかもしれない	89	0.4%	-
5	悩み事があったり、疲れていたりしたら断らないかもしれない	221	0.9%	-
6	わからない	732	3.1%	-
7	その他	136	0.6%	-
	N(%ベース)	23392	-	

共通質問15(ア) 周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つに○) N=22574

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	いない	19544	85.0%	87%
2	いる(いた)	799	3.5%	4%
3	わからない	2231	9.7%	10%
	不明	425	1.8%	
	N(%ベース)	22999	100.0%	22574

【質問15(ア)で「2 いる(いた)」に○をつけた人だけお答えください】

共通質問15(イ) どの薬物でしたか。(複数回答可) N=799

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	94	11.8%	-
2	覚せい剤(スピード、エスなど)	64	8.0%	-
3	大麻(マリファナ、ハッシュシュなど)	330	41.3%	-
4	コカイン	43	5.4%	-
5	あへん類(ヘロインなど)	19	2.4%	-
6	LSD	17	2.1%	-
7	MDMA(エクスタシーなど)	20	2.5%	-
8	いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	74	9.3%	-
9	わからない	278	34.8%	-
	N(%ベース)	799	-	

共通質問16 もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。(1つに○) N=21492

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	使用をやめるよう説得する	11178	49.2%	52%
2	他の人(先生や友人など)に伝える	2646	11.6%	12%
3	警察に通報する	2061	9.1%	10%
4	医療機関や保健所等に連絡する	658	2.9%	3%
5	個人の自由であるので放っておく	1972	8.7%	9%
6	わからない	2772	12.2%	13%
7	その他	205	0.9%	1%
	不明	1221	5.4%	
	N(%ベース)	22713	100.0%	21492

## 2018年度 関西4大学「薬物に関する意識調査」単純集計表

共通質問17 これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	警察の相談窓口	5648	24.1%	-
2	行政機関の相談窓口(精神保健福祉センター等)	2396	10.2%	-
3	医療機関の相談窓口	3448	14.7%	-
4	民間の支援団体の相談窓口	1825	7.8%	-
5	知らない	14086	60.2%	-
6	その他	23	0.1%	-
	N(%ベース)	23392	-	

共通質問18 あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数回答可) N=23392

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	薬物乱用による健康被害情報	11136	47.6%	-
2	薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報	8240	35.2%	-
3	国や地方公共団体等の薬物乱用対策情報	2904	12.4%	-
4	医療機関や民間支援団体の取り組み情報	2371	10.1%	-
5	特になし	5695	24.3%	-
6	その他	89	0.4%	-
	N(%ベース)	23392	-	

共通質問19(ア) これらの薬物を入手可能と考えますか。(1つに○) N=22386

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	不可能だ	4764	20.8%	21%
2	かなり難しい	5054	22.1%	23%
3	難しいが手に入る	8459	36.9%	38%
4	手に入る	4109	17.9%	18%
	不明	534	2.3%	
	N(%ベース)	22920	100.0%	22386

【質問19(ア)で「3 難しいが手に入る」または「4 手に入る」に○をつけた人だけお答えください。】

共通質問19(イ) 入手可能と考えた理由は何ですか。(複数回答可) N=12568

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	インターネットなどで探せば見つけることができると思うから	10697	85.1%	-
2	インターネットなどで販売されているのを見かけたことがあるから	474	3.8%	-
3	それ以外	1533	12.2%	-
	N(%ベース)	12568	-	

共通質問20 薬事法の一部改正(平成26年4月1日施行)により、危険ドラッグと称される薬物や商品(脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど)の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(1つに○) N=22224

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	知っている	15627	65.6%	70%
2	知らなかった	6597	27.7%	30%
	不明	1609	6.8%	
	N(%ベース)	23833	100.0%	22224

※【注】(除不)とは、不明を除くの意味。